

都市緑化フェア・老馬谷ガーデン 里山的エリア 報告書

環境学部環境創生学科 都市緑化研究会 2年 小野裕喜

●里山的エリアの成り立ち

2016年7月末、飯島先生の授業を受けていた生徒数人(後の初期メンバー)が横浜市内の空き地に公園を造らないかという先生呼びかけで集結した。自分は興味半分で行ってみたいと思ったが当時は今のような素敵なガーデンができるとは全く思っていなかった。プロジェクトに参加してみたものの周りのメンバーには豊富な専門知識を持っている人もいれば、自分のやりたいことがはっきりしている人たちばかりで正直自分は出遅れ感が尋常じゃなかった。しかし一度決めたことなので最後までやり切りたいと思い飯島先生にお世話になった。



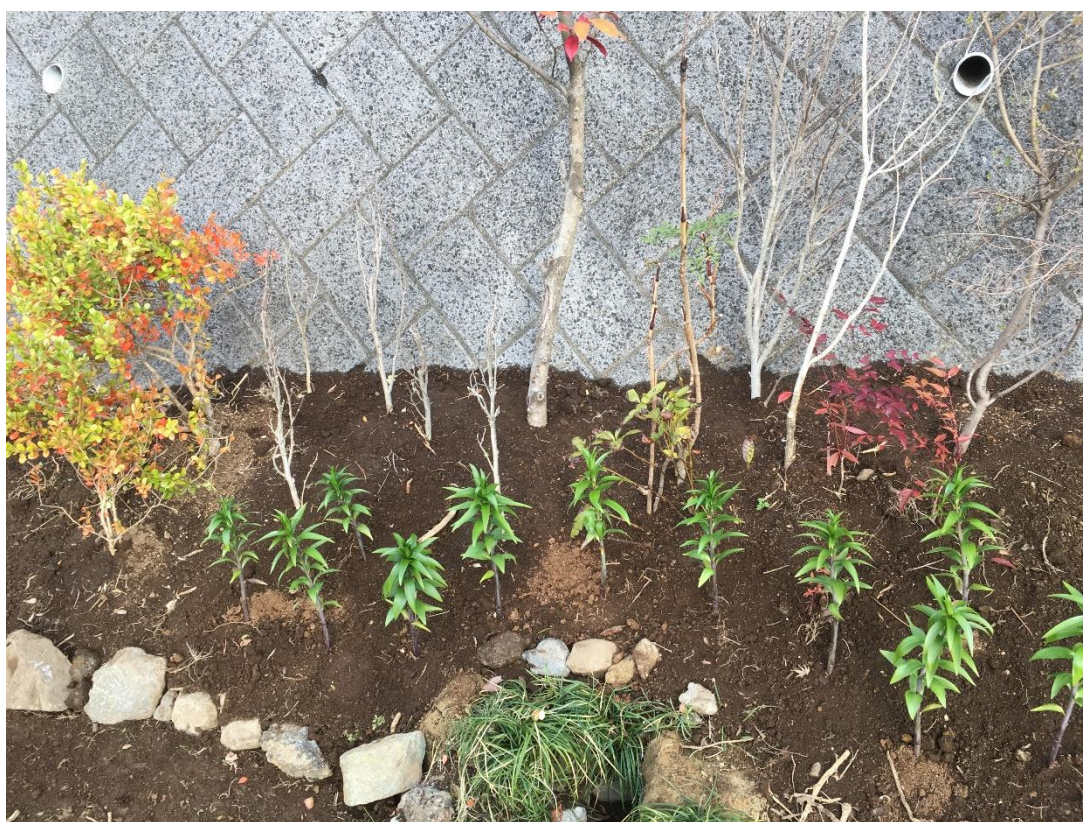
(2016年7月29日の早淵川・老馬谷ガーデン)

現地を初めて見たときは想像を遥かに上回る雑草でこんなところに公園を作ることがどういうことか想像すらできなかった。現地視察した当日は真夏の暑い日だった。しかしふとした瞬間に吹いた風がとても心地よかったことを今でも忘れられない。その瞬間自然を五感で感じる事が出来る公園が作れば良いなと思い、先生との相談を重ね風に揺られる草の音で自然を感じる事のできるサウンドガーデンを作ろうと決心した。音が聞こえることは目の不自由な方やお年寄りの方にも自然を感じてもらえる事が出来るのではとも考えた。また自分は昔ながらの“里”が大好きでこの要素を取り入れたいと思った。

素人の自分は木や草花の種類も何もわからず何から始めればいいのかわからず個人の活動が行き詰ってしまった。そんな時先生から風になびく笹をいただき、またほかのメンバーからもいろいろな種類の木を譲ってもらった。そこで実際に木の長短や色などを自分なり

に考え植えてみると根が大きいものから小さいもの、葉が落ちやすい木など様々な発見があり課題も見つかった。一番困ったのは土のすぐ下がコンクリートでできているためそのまま植えると根が成長しない。そこで10~15cmほどの盛り土をした。ただそれだけでは木がすぐに倒れてしまったため植木屋さんに木の正しい植え方を直々に教わり無事解決した。また盛り土を斜面にすることで里山を表現することが出来た。

一つ一つの木にはそれぞれの特徴があり成長しやすい環境も違う。そんな中で人間が自然にあえて手を加えることで生態バランスを整え里山を築き上げてきた日本人はすごいと思った。自分は里山的エリアの木について全然知らないのこれから維持管理をする過程で少しずつ理解し、より共存しながら成長できる環境を作り上げていきたい。



●活動を経て

始めから上手くいくことなんてない。仲間と本気でやったからこそ課題が見つかりそれを改善した新しい課題が生まれる。完成させるには様々な困難があるが何事も失敗は付き物。それを恐れているのは本当にいいものは作れないのだということをこの活動から感じ今後も教訓として様々なことに挑戦していきたいと思う。